

## 河合弘之弁護士・監督の映画「日本と原発」を鑑賞して

2016.3.28に東京新橋の生涯学習センターでJAL退職者懇談会が開催した「日本と原発」のDVD鑑賞会がありこれに参加したときの感じたものを少々纏めてみたい。

当日は映画開始が午後の2時開始ということもあり、実は不見識ながら少々眠気を感じながらTV画面に目を向けていたが、内容の迫力というか、政府、東電、への怒りが時間ごとにこみあげてくることおびただしく、居眠りどころではなく、約2時間半の上映時間の全てに身を乗り出して見入ってしまった。

東電の福島原発にかかる事故関連報道については、私自身の不勉強も重なり一般のマスコミをとおしてのみの情報で評価していたが、今回河合弁護士監督のDVDに出てくる一言一句に驚きを禁じ得ない。順不同で例示をすると：

- 1.我々が日常負担する電気料は「総括原価方式」とやらで、コスト(原価)を高くすれば高くするほど電力会社に利益が生じる。(総コストの3%を利益とする手法。)
- 2.東電としては、今回の事故原因を全て「津波原因」にもっていかようとしている。地震原因ということは認めない。予期しえなかった事故ということに執着。
- 3.時の政権はいわゆる「原子力村」が支えている。日本の政治・経済がこの原子力村に凝縮している。
- 4.原発推進の陰の理由としてプルトニウム産出、これの売却、或いは核兵器開発資源として、原発稼働には重要な任務が潜んでいる。
- 5.原発再稼働ありき、或いは不可逆的に原発稼働を目論んでいる。
- 6.「国破れて山河あり」という詩があるが、原発は「国破れて山河もなし」
- 7.安倍首相の姿勢では子供たちの安全と未来に責任が持てない。
- 8.福島地域及び被害関係者の損害賠償金の受取りに関して、被害者が複雑な書類を作成し申請して・・・という手順を強いられているが、これは逆ではないか。加害者が頭を下げ、陳謝しながら持参するのが当然ではないか。こんな道理に反することが許されるのか。
- 9.子供の甲状腺異状に関しての報道が、なぜか恣意的に抑えられている。
- 10.東電はもはや加害者ではなく、対外的な責任、対応を政府に丸投げした形になっている。

その他、数限りない驚きの言葉、事象が頻発して、私の理解と同時に現実には、個人としての無力感に何とも言えない「やるせなさ」を感じさせられた。

このDVDを見た後では「原発再稼働」などという政策は到底考えられない。政権与党の政治家、経団連をはじめとする経済界、は経済至上主義が人間の幸福を導くと主張しているが、それは人の道に基本的に背くのでは。

このDVDを安倍総理、経団連の会長をはじめ原発推進を唱える御仁の全てに見てみたいものである。

そのうえで、国民全体で、国民共通で我々の安全で安心した幸福とはどういうものかを、今こそもう一度考え直してみるいい機会とも思えるのですが。

以上

2016.3.31 T.I